

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 経済学部経営学科 4 年

参加プログラム: IARU-NUS2

派遣先大学: 国立シンガポール大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界:未定) 6.起業 7.その他( )

<p><b>派遣先大学の概要</b>                  国立シンガポール大学。シンガポール西部にある総合大学で、アジア有数の有力大学。大学の授業およびその他事務を含め英語が使用言語となっているため、日本人にはとつきやすいかと。日本人留学生も少数ながらいる。</p>
<p><b>参加した動機</b>                  2014 年 9 月からの香港大学への交換留学に備え、海外に単身で生活をする経験をしてみたかったから。元来アジアの都市に強烈な興味があり、現地で行われる「都市学」に興味があったから。</p>
<p><b>参加の準備</b>                  ①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)                  東大内での選考は、他の海外プログラムと同様に。IARU に関しては、実施期間と東大内での試験期間が被るため東大内での倍率はあまり高くない模様。シンガポールでの手続きは、ほぼ必要書類を埋めるだけで全員通過可能。                  ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)                  3 週間の短期滞在のため、ビザの必要こそないものの、「Student Pass」という現地の政府公認の学生証を取得する必要があった。これは、現地の政府機関に取得に赴かないといけないので多少大変でした。                  ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)                  特になし。                  ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)                  クレジットカード付帯の保険を活用。ただし、この種の保険を用いる場合、そのクレジットカードで当該プログラムの航空券を購入する必要等があるので、注意が必要。心配な場合は別途保険に加入することをおすすめします。                  ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)                  所属する経済学部の授業は、プログラム期間中欠席しました。定期試験には間に合うことができたので、単位取得に関して特別な手続きは必要なかったです。他学部(教養学部)の授業も履修していましたが、これらは定期試験を日程的に受けられなかった(授業内試験の為)ので、担当教員と相談の上、レポート提出などで単位認定をお願いした。                  ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)                  TOEFL90。現地は英語ネイティブであることを前提で授業が進むので、自分のようなレベルの英語力では大変でした。とにかくできるだけ英語力向上の努力を積むのが良いと思う。そして、現地で英語の指示が分からなかったりしたら必ず聞き返すこと。絶対に面倒くさがらず答えてくれます。面倒くさがられることを怖がっているようではだめです。                  ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど                  変圧器。海外と日本では電圧が違うので変圧器が必要と思います。充電器などは海外電圧に対応しているものも多いようですが、僕も一緒に行った東大の友達も充電器に異常があったので、2 週間以上くらの継続使用をする場合は、変圧器を持参されることをお勧めします。</p>
<p><b>学習・研究について</b>                  ①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)                  予習として一日に 3 から 5 つの英語論文を読んでから授業に臨まなくてははいけなかった。授業はその読んできた論文をもとに先生がプレゼンテーションをされ、その後全学生でディスカッションをするというスタイル。3 週間の最後に長めな英語のエッセイも要求され、最後 3 日ほどはほぼ寝ずに準備しました。結構大変だった記憶があります。ただ、その分やりきった達成感は半端ないです。また、他国の大学生も懸命に勉強するので、とても刺激になります。                  ②学習・研究面でのアドバイス                  上にも書きましたが、分からないことがあったらとにかくすぐ聞くことです。英語が不自由なことは周りの学生も先生もすごく良く理解してくれているので、聞けば必ず懇切丁寧に教えてくれます。怖がらずに聞くこと、あとは授業の内容が分かるときはとにかく積極的に発言するのが授業を楽しく乗り切るコツです。                  ③語学面での苦労・アドバイス等                  英語論文を読むのに他のヨーロッパやアメリカの友人の 3 倍くらいの時間がかかったりして大変ではありましたが、全くついていけないようなことはありませんでした。そこは安心してくれて大丈夫だと思います。</p>
<p><b>生活について</b>                  ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)                  シンガポール大学が寮を提供してくれました。授業教室より徒歩 1 分ほどのところでとても便利でした。                  ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)                  気候は暑いです。治安に関しては、シンガポールは心配の必要はなく、ほぼ日本と同じような感覚で生活ができます。コンビニなどのインフラも充実です。ただ、大学が街の中心から少しだけ離れているので、最寄りのスーパーまで 15 分くらい歩かなくてはいけなくて少し不便でした。校内にもコンビニはあるのですが、ビール等はそこでは売ってお</p>

らず、たびたび外に買いに行かなくてはいけませんでした。お金は、新生銀行の口座を作り日本から両親に送金してもらいシンガポールのATMでおろしていました。新生銀行は海外のどのATMでおろせる口座が作れるのでおすすめです。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は全く問題ありませんでした。健康管理に関しては、とにかく十分な睡眠時間を確保することが大事です。とかく海外生活ははしゃぎがちですが、ある程度の長期滞在の場合は、思い切って予定を入れずに休む日を作らないと、体調を壊しかねません。自分が思っている以上に海外での暮らしは体力を使います。ここは意識的に気をつけました。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空運賃はエアアジア(クアラルンプール乗り換え)を使ったので、4万円程度で済みました。その他三週間で、お金を特に節約しようとは思わず気ままに使ったところ生活費は込みで8万程度でした。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東大より10万円の支給。IARUは奨学金の受給がセットになっているので、IARUの参加許可は奨学金の受給決定です。この10万円はまるまる授業料にスライドするような形になります。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

週末は、プログラムの友人と街に繰り出しました。クラークキーと呼ばれる繁華街でお酒を飲んだり、セントーサ島や、ユニバーサルスタジオシンガポール、マーライオンなども見に行きました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

特に主だったものはありませんが、英語が片言であってもみな暖かく迎えてくれました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

Wifiは、教室や食堂などは使用可能でした。自分の場合は寮の中では無線LANはなく有線のみだったので、日本から有線LANを無線に切り替える機械を持参しました。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

とにかく、自分が一人の日本人であるということそれ自体を俯瞰的に見ることができました。日本にいただけでは、日本は世界の中でどういう立ち位置なのか、どういった見られ方を他国のエリートの大学生からされているのかを知ることが出来なかったと思っています。それと同時に、東大は日本のトップ大学であるだけでなくアジアでも有数の大学であるということを再認識しました。東大生と人に言うと、プログラムに参加している他国の大学生からかなりの尊敬の念を持って自分のことを見てくれました。この環境で3週間一緒に暮らす中で、「自分もアジアの中で有数の東大生として恥ずかしくないように努力しなくては」と強く思いました。語学力をはじめとてまだまだ国際的な観点で見たときに未熟である自分が浮き彫りになったような気がします。この思いを持つことが出来ただけでもこのプログラムに参加できてよかったと思っています。

②参加後の予定

上述の通り、今年9月から香港大学に交換留学をして、香港の文化について学ぶ予定です。来年の5月に帰国して以降は就職活動を行い民間企業への就職を考えています。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

こういった海外の活動は、事前に調べることも、体験してみた後に自分の心にじんわり残る言葉にできない何かを得ることに大きな意味があると思います。ですので、あれこれ調べる前に、直感的に「いいな!」と思ったプログラムにはあれこれ考えず挑戦してみてください!応援しています!

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

Go Global のウェブサイト・パンフレット

②その他



その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載し、留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 経済学部3年

参加プログラム: NUS2 Asia Now!

派遣先大学: NUS

卒業・修了後の就職(希望)先: 3.公務員

派遣先大学の概要

NUS はアジアとも言われる大学で、世界各国に開かれている大学だと思います。滞在中にも多くの留学生に出会い、また私の担当の教授も外国からの方でした。寮や自習スペースなど学生生活を送る上での環境が整っており快適に過ごすことができます。

参加した動機

一度シンガポールに旅行に行ったことがあり、その際、マレー系、中国系、インド系の人々が共存しているという日本では実感できない多民族国家を体感しました。街の様子がそれぞれの民族で異なり、また観光地がとても整備されていたことから、シンガポールという国家、街の成り立ちをもっとより深く知りたいということで、このプログラムへの参加を決めました。

参加の準備

- ①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)  
IARU の応募書類が自分のパソコンだと編集できないようになっていたのですが、大学のパソコンを使うことで書くことができました。わからないことがあったらすぐに担当の方にメールした方がいいと思いました。
- ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)  
滞在が1ヶ月以内だったため必要ありませんでした。それでも移民局のようなところに登録する必要がありました。
- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)  
特にしませんでした。
- ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)  
三井住友海上@トラベル(出国から帰国までカバーするように入りました)
- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)  
私の学部では単位が一切認められなかったため、海外渡航届けを出しただけでした。ゼミの担当教授にはあらかじめ伝えました。
- ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)  
東大で開催されていた英会話(TSL)に参加したり、Language exchange program で留学生の方と話したりしていました。
- ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど  
英語力はやはりネイティブどうしの会話などに慣れるのが大変だったので準備しておくといいと思います。

学習・研究について

- ①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)  
毎回授業の前に事前予習課題の読み物が出て、それについて自分の意見を述べるのが宿題として課されました。また final essay もあり日本にいるときよりもたくさんの課題をこなす必要がありました。
- ②学習・研究面でのアドバイス  
効率よく時間をつくっていくことが必要だと思います。
- ③語学面での苦労・アドバイス等  
初めは言っていることも分からないし、言いたいことも全然話せませんでした。慣れが大切だと思いランチやディナー、観光など皆の集まりにはつらくても参加するようにしていました。

生活について

- ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)  
大学が用意してくれた寮に泊まりました。概ね清潔で快適でした。
- ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)  
気候は日本の夏がずっと続いている感じです。冷房がきつかったのでジーンズを持っていけばよかったと思いました。大学は街の中心から離れたところがあるので観光に行くのも公共交通機関を使うと一時間かかりました。タクシーが日本より安いので、時間がないときは利用していました。お金は使う目安の分だけ両替して持っていきました。
- ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)  
日本と同じくらい安全でした。
- ④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)  
航空費は 10 万、授業料や宿泊費は 15 万、その他は 10 万くらい使いました。
- ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)  
奨学金のプログラムだったので 20 万受給できました。
- ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)  
週末はセントーサ島や地元のバンドのコンサートに友達と行きました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

メールしたらくわしく教えてサポートしてくれました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

PC センターは 24 時間使うことが出来ました。食堂は 5SGD で一食食べることが出来るなど、種類も豊富で安くてよかったです。大学内では wifi が使えたのですが、寮の中は使えず、有線 LAN ケーブルで作業しなければなりませんでした。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

文化が違う人々と一緒に行動すること、寮生活をする事の難しさを知りました。英語では思ったことが日本語ではなしているところほど言えないことがつらかったので、語学の大切さを実感しました。

また、参加者が皆夏期休暇中だった事から(オーストラリアは冬期休暇中)日本の制度の特殊性を感じました。教育面では他の大学は午前中授業で午後は自習の時間であるなど、色々な形があることを知りました。プログラムの内容も、課題が多く出たり、教授がシンガポールの方でなかったりなど、日本には体験できなかったことを体感できました。

海外の学生が日本の文化を私が思っているよりも知っていて驚きました。外国人が日本に来やすい環境を整えて、もっと広めたいと思ったと同時に、自分ももっと知っておかなければな、と思いました。

②参加後の予定

学期末テスト。その後、東大でのサマープログラム、TISP にも参加する予定です。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

とても濃い 3 週間になると思います。課題も最初はその量に驚きますが、効率的に進めれば時間を作ることができると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。